

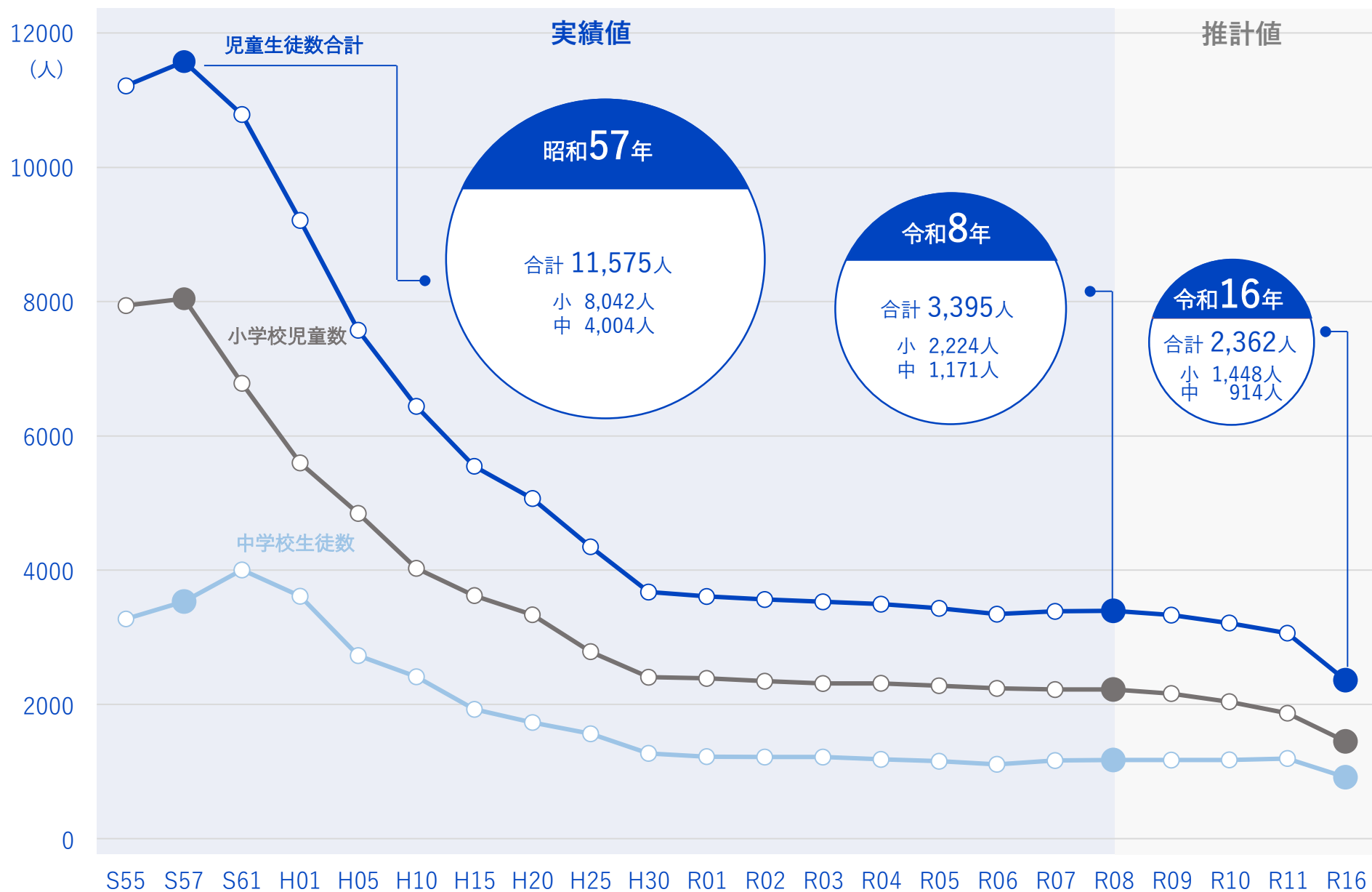


玉野市立小中学校適正規模・適正配置計画

説明会（玉小学校・玉原小学校・日比小学校・第二日比小学校）

令和8年10月 玉野市教育委員会

01 市内の児童生徒数の現状



【令和8年度以降（点線部分）は住民基本台帳による推計値】

02 玉野市の課題（児童生徒の減少を背景として）



学校運営

- ・グループ学習、運動会などの学校行事について、日常的に一定程度の規模を確保することが困難
- ・「多様な考え方とのふれあい」や「多人数で力を合わせて課題解決に取り組む」ための教育環境の確保が困難
- ・複式学級が生じる程度の過小規模校では、小規模校の課題が大きくなっている



学校施設

- ・学校施設83棟中、54棟（65%）が昭和60年度以前に建設されるなど老朽化が進んでいる
- ・将来的な在り方が決まっていない状況では、大幅な設備投資が困難（改築・大規模改修や最新の教育設備の導入など）

03 適正規模化の方針

計画の考え方

「玉野市の子どもたちにとって、より良い教育環境とするために、学校はどうあるべきか」という教育的な視点を第一に考える。

計画の目的

中長期的な視点をもって、学校再編を行い、新たな時代を生きる子どもたちにより良い教育環境を提供し、**玉野市の教育の質を一層向上**させる。

再編の方向性

ソフト面

一定数以上の児童生徒が在籍する学校規模が確保され、集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し、切磋琢磨しながら、一人一人が資質・能力を伸ばしていける環境を整える。

ハード面

計画的な改築・大規模改修、必要となる教育機器の導入など、方向性の示された学校施設や設備に集中的に経費を投入することで、教育環境の改善を図る。

04 本市が目指す「学び」の姿

本市が目指す「学び」とは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に進めることにより、「深い学び」を実現し、「たくましく、学んでのびるたまのっ子」を育成することです。



個別最適な学び

違いを尊重し、その人の方法やペースで進める学び！

✓ 学びの姿

- ・子ども一人ひとりの違いに合わせた指導により、基礎・基本の確実な定着を図る
- ・子どもの興味・関心に応じたテーマを選んで追求するなど、子ども自身の主体性を引き出す

✓ 育てたい能力

- ・自ら取り組む力
- ・途中であきらめず上手に続けていく力

✓ 目指す環境

- ・いろいろな学び方の中から、自分にあった学びに出会える



協働的な学び

仲間と考えを深める学び！

✓ 学びの姿

- ・「一つの正解」を求めるだけでなく、多様な意見に触れて視野を広げる
- ・お互いの意見の「ズレ」や「違い」をきっかけに对话を通じて新しい考えや解決策を生み出す

✓ 育てたい能力

- ・物事を多角的に、深く考える力
- ・みんなで力を合わせる協調性
- ・相手の立場に立って考える思いやりの心

✓ 目指す環境

- ・様々な意見や解釈に触れ、見方・考え方が広がる



深い
学び

知識を覚えるだけで終わらせず、「なぜそうなるのか」をしっかりと理解する学び





「深い学び」につながるプロセスを5年生社会科の

「日本の食料は、これからも安定して手に入るのだろうか？」（食料生産）」

を一例に説明します。

Step
01

個の「自問」

一人ひとりが資料や教材を、自分の暮らしと結びつけて疑問を持つ。



「外国から買うものが多いな。」
「暮らしに影響はないのかな？」

Step
02

みんなの「対話」

友達と意見交流により、新しい視点が広がる。



「Bさんの内容は知らなかった。」
「同じ資料でも見方が違うな。」

Step
04

最終的な答えの「発見」

一人ひとり違う最終的な答えを見つけ、新たな課題へ発展する。



「地産地消を大切にしたい。」
「工業は同じ状況だろうか？」

Step
03

考えの「討議」

意見をぶつけ合い、見方・考え方を広げる。



「作物は国内で作るべきだ。」
「ある程度の輸入も必要だ。」

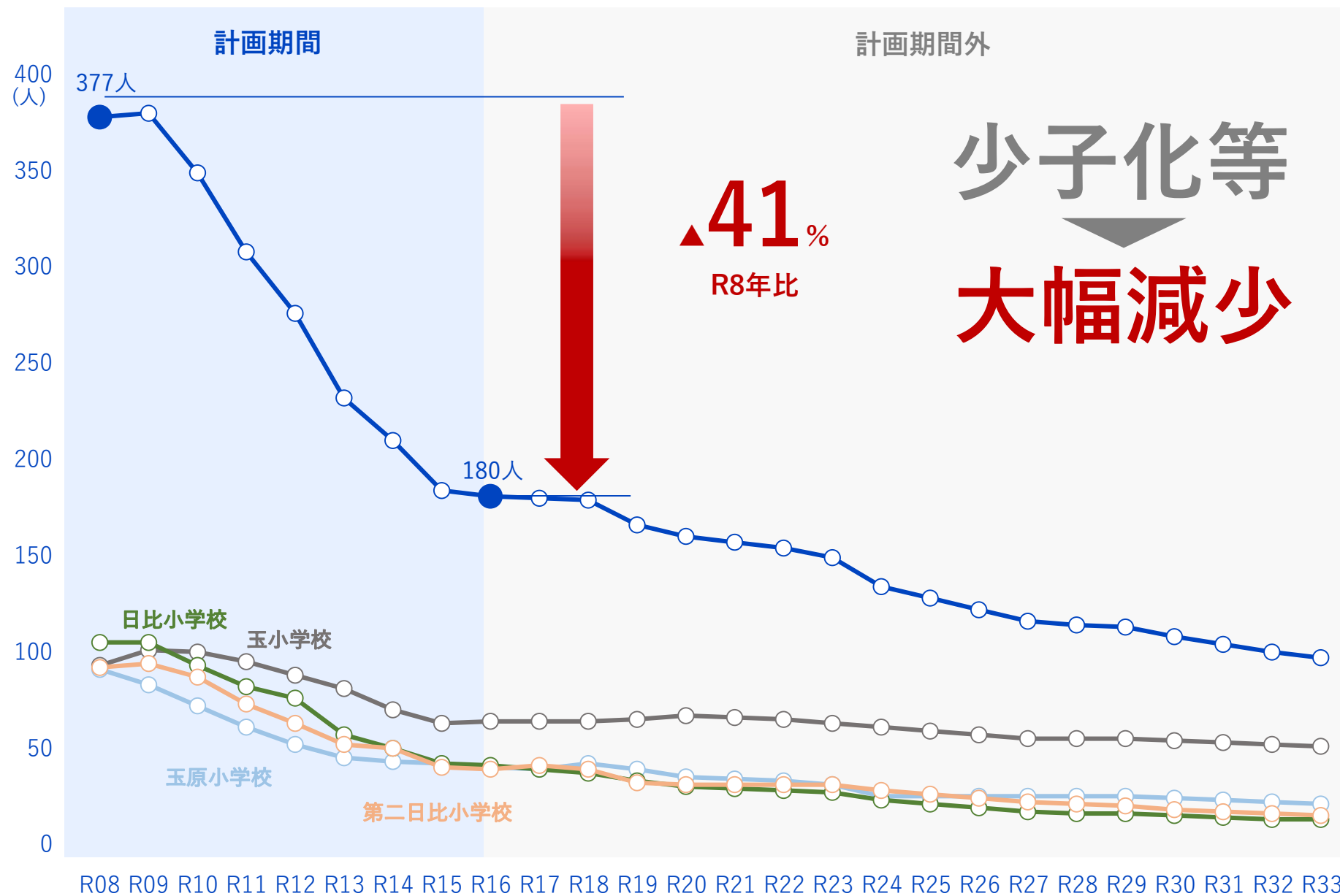


新たな疑問の発生



✓ 自分の考えを持ち、友達とのやり取りを通して、子どもたちは学びを応用し、より理解を深めていきます。この「深い学び」を実現するために、**再編を通して**、少人数による固定されがちだった関係性から、適度に多様な仲間がいる環境へと広げ、**深い学びに欠かせない「多様性」**が日常になる教育環境を目指します。

05 玉小学校・玉原小学校・日比小学校・第二日比小学校の児童数の推計



【住民基本台帳による推計値】

06 玉小学校・玉原小学校・日比小学校・第二日比小学校の学級数の推計

玉小学校

現在、全学年単学級。令和19年度に複式学級が生じる見込み。

玉原小学校

現在、全学年単学級。令和11年度に複式学級が生じる見込み。

日比小学校

現在、全学年単学級。令和12年度に複式学級が生じる見込み。

第二日比小学校

現在、全学年単学級。令和12年度に複式学級が生じる見込み。

住民基本台帳による推計値

学校	R08		R09		R10		R11		R12		R16	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
玉小	92人	6学級	100人	6学級	99人	6学級	94人	6学級	87人	6学級	▶ 63人	6学級
玉原小	90人	6学級	82人	6学級	71人	6学級	60人	5学級	51人	5学級	▶ 39人	3学級
日比小	104人	6学級	104人	6学級	92人	6学級	81人	6学級	75人	5学級	▶ 40人	3学級
二日比小	91人	6学級	93人	6学級	86人	6学級	72人	6学級	62人	5学級	▶ 38人	3学級
玉＋玉原＋日比＋二日比小	377人	14学級	379人	14学級	348人	13学級	307人	11学級	275人	10学級	▶ 180人	6学級

07 具体的な再編の内容（玉小学校・玉原小学校・日比小学校・第二日比小学校）

再編の時期

年 度	再編内容	位 置
令和12年度 (2030年度)	玉小、玉原小、日比小、二日比小を統合する。	現日比中

再編のスケジュール

学校名	R 8 年度	R 9 年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度		R15年度
玉小								
玉原小								
日比小								
二日比小								

準備委員会設置

統合（現日比中へ）

08 再編に当たっての留意点

地域説明会で多く上がった声

「通学の距離が長い」
「道路が狭く、自転車も歩行者も危険」
「街路灯がなく道路が暗い」

など

通学路の
安心・安全の確保



通学路の考え方

・ 通学距離の目安

区 分	通学距離の目安
小学校	徒歩通学範囲 原則 2 km以内 おおむね 2 km以上の区域は、公共交通機関又は通学用バス等を利用

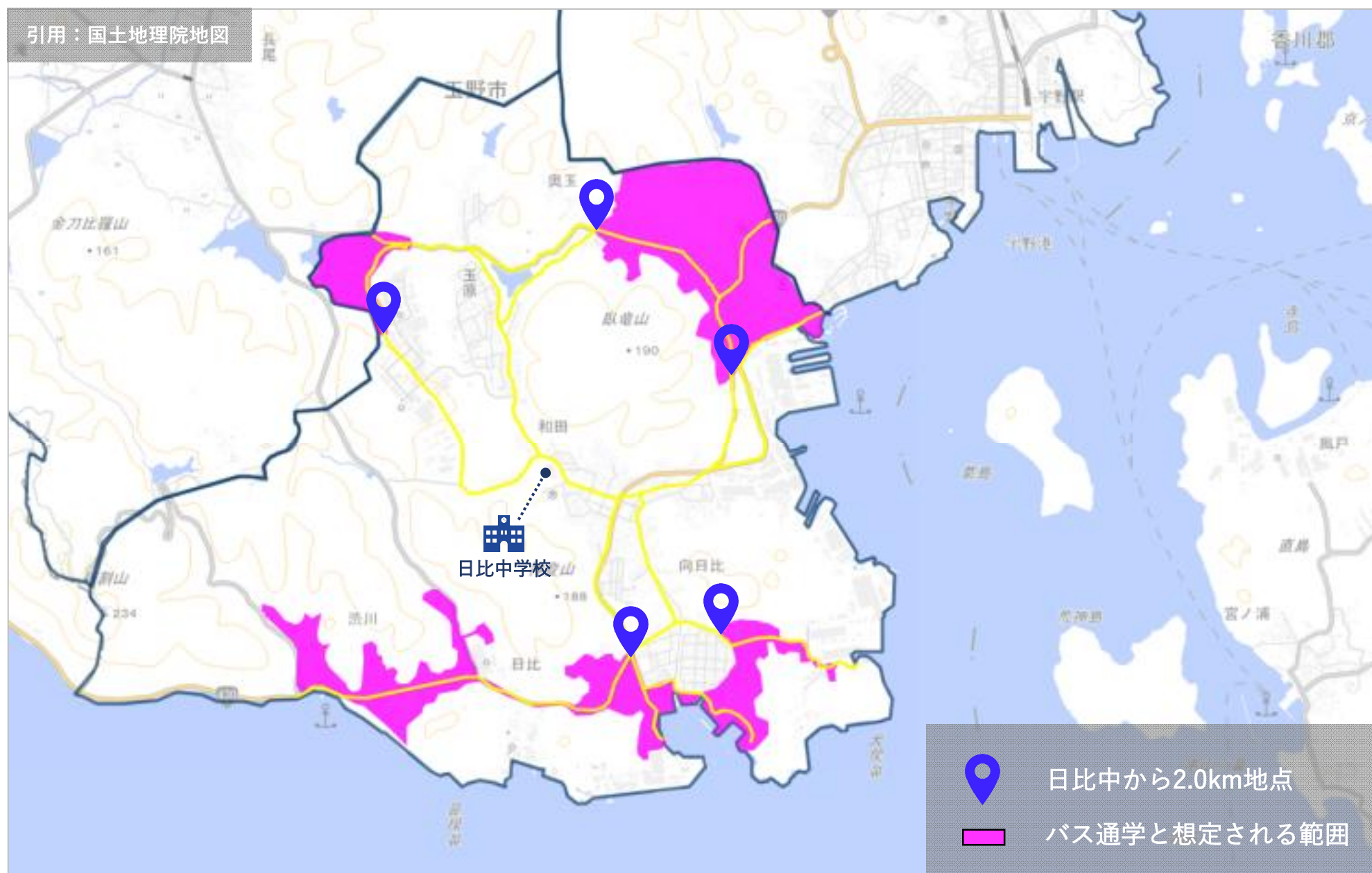
・ 通学費負担

再編後の**指定学校への通学費は全額市が負担**します。(指定校変更制度を適用した生徒は除きます。)

・ 安全対策

危険箇所の再点検と歩道整備や街灯など道路管理者等に対する働きかけを徹底します。

09 遠距離通学の範囲（目安）





.....



.....



遠距離通学の基準

小学生について、国の基準は4 km以上だが、玉野市では半分の**2 km以上**とする



遠距離通学の想定範囲

最寄りの幹線道路から現日比中学校までの距離が2 km 
以上となる範囲 



遠距離通学範囲の協議・決定

再編準備委員会において協議・検討し、最終的な遠距離通学の範囲を決定していく

- ① **ちょうど2 kmではなく、概ね2 kmの範囲**（大字や小字など）
- ② 著しく危険である場合や坂道などの地理的条件を考慮
- ③ 玉野市全体の他地区との比較

10 再編準備委員会について

再編準備委員会

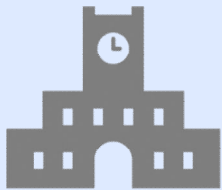
メンバー

行政職員、学校教職員、保護者代表、地域代表など50名以内で構成

内容

学校の名称や校歌、校章をはじめ、通学のことや制服、PTA、学校運営に関する事などについて協議する。

各部会ごとに1か月から2か月に1回程度集まって協議する。



総務部会

校名、校歌、校章、式典、地域の交流等に関する事



PTA部会

PTA組織の統合、制服や体操着等に関する事



学校運営部会

学校運営、教育内容、学校間の交流等に関する事



通学安全部会

スクールバスの運行、通学路の交通安全等に関する事

本日はありがとうございました。



計画HP



ご質問・ご意見